

鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第30報

1985年度から1992年度に出水・阿久根地方で観察された鳥類

柳澤紀夫¹・藤村 仁²・安部直哉³

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan, 31.

The Bird Record on Izumi and Akune, Kagoshima in winter of 1985 ~ 1992

Norio Yanagisawa¹, Hitoshi Fujimura² and Naoya Abe³

はじめに

1985年10月にはじめた「鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査」は、ツル類についての調査が主であることは当然であるが、その調査最中にもツル類以外の多くの鳥類を観察してきた。初期2年度に調査地域内で認めた鳥類については、「鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第11報 1985, 86年度に出水・阿久根地方で観察された鳥類」として発表した。今回はそれら年度も含めて、主にその後の調査結果について報告する。

調査時期など

調査方法、調査地域、調査員数、調査地の環境などについては、前報「鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第11報 1985, 86年度に出水・阿久根地方で観察された鳥類」とほぼ同様である。ただ、年度が進むにつれて、農地の改良工事や道路の改良・舗装・新設により環境が変化したところも多く、工事完成後は人工化が強くなることから、鳥類が追い出されている場所が多くなりつつあった。

調査時期については表1 調査実施年月日として示した。

調査結果

85・86年度には、当地で過去に記録されていた鳥類257種のうち154種を記録したが、92年度までの調査では当地での新記録種をいくつか加えることになり、当地での目録は265種となり、その中の188種を記録した。年度別記録種については表2に示した。その年度に1度でも記録されたものであれば○印で示している。これによって当地がツル類以外にも多種多様な鳥類の棲息地になっていることをあらためて示せたと思っている。

¹財団法人日本鳥類保護連盟 東京都新宿区弁天町1三河屋ビル3F. Benten-cho 1, Shinjuku-ku, Tokyo.
Japanese Society for Preservation of Birds

²東京都中野区中野6-8-15, Nakano 6-8-15, Nakano-ku, Tokyo

³奈良県生駒郡斑鳩町神南3-9-32-102, Jinnan 3-9-32-102, Ikaruga-cho, Nara Pref.

表1 調査実施年月日

85年度	85-86年
	85/10/22~28, 11/21~28, 12/19~24, 86/1/26~31, 2/20~26.
86年度	86-87年
	86/11/6~15, 12/21~28, 87/1/6~12, 1/18~21, 2/6~14, 3/13~18.
87年度	87-88年
	87/10/30~11/8, 11/30~12/7, 88/1/10~16, 2/13~19, 3/16~21.
88年度	88-89年
	88/11/8~14, 12/5~10, 89/1/9~15, 2/7~12, 3/8~15.
89年度	89-90年
	89/11/8~14, 12/13~18, 90/1/13~18, 2/13~18.
90年度	90-91年
	90/12/17~24, 91/1/13~19.
91年度	91-92年
	91/12/14~19, 92/1/12~18.
92年度	92-93年
	93/1/13~22.

注. 1985年度から89年度は、「国際保護鳥ナベヅル・マナヅルの保護管理手法に関する調査」による。
1990年度以降は、「大型鳥類等による農産物被害防止等を目的とした個体群管理手法及び防止技術の調査」による。

○アビ類

記録していない。

○カイツブリ類

8年間に5種類を記録した。カイツブリが個体数も多いこともあって最もよく見られ、ついでカンムリカイツブリとハジロカイツブリがときどき見られている。

○ミズナギドリ類

86年10月に東干拓の上空を飛行して海に戻ったオオミズナギドリを1羽記録したのみ。

○カツオドリ類

85年11月にカツオドリを記録したのみ。

○ウ類

カワウ、ウミウ、ヒメウの3種を記録した。岩礁で休むウミウ(阿久根)を見ることが多かった。その中に少数のヒメウが混在していた。

○サギ類

当地で過去に記録されている14種のサギ類のうち、11種を記録した。アオサギ、ダイサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギの5種類がよく見ることができ、チュウサギは10月・11月初めには見ることが出来、稀に少数が越冬している。サンカノゴイ(88年2月16)とアカガシラサギ(87年11月1日)は各1羽

を認めた。

また、一般に本州以北では夏鳥と考えられているササゴイだが、当地では冬期にもよく認めている。そのつもりで探せばおそらく毎年越冬しているものと思われる。ムラサキサギも当地ではたびたび秋期に記録している。

○コウノトリ・ヘラサギ・トキ類

この8年間には、ナベコウ成鳥1羽が90年1月13日に東水流の上空を東から西に飛行する1羽を記録したのみで、他種は記録していない。

○ガン類

5種のうち、4種を記録した。コクガンは新記録種で、92年1月に1羽を記録している。サカツラガンは89年1月から3月までに1羽を、マガンは90年12月に1羽記録している。ヒシクイは89年1月から3月までに1羽、90年12月から91年1月に3羽を記録している。

○ハクチョウ類

コハクチョウを85年度と86年度に記録した。

○カモ類

当地で記録されている22種のカモ類のうち、17種を記録した。マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、などが、個体数も比較的多く、定期的に渡来しているカモといえる。また、85年度にアカツクシガモ4羽が越冬したほか、87年度と91年度にトモエガモ1羽、85年10月にシマアジを記録した。当地では水面採餌カモ類は少なくないが、潜水採餌カモ類は少なく、特に海棲種は稀である。

○タカ・ハヤブサ類

当地で過去に記録のある19種のうち、15種を記録した。トビが最も多く、チョウゲンボウ、チュウヒが次いで頻繁に見られている。それらに次いでハイイロチュウヒ、ミサゴ、ノスリ、ハヤブサ、コチョウゲンボウなどは出現の回数が多い。稀な種では、オオノスリを85年度に1羽、カタジロワシを91年度に1羽認めている。

また、当地ではないが、当地の南約40の川内川の河口に近い場所(川内市高江)で92年度にカラフトワシ1羽が越冬した。

○キジ類

ウズラは分散地区の水田の畦を丁寧に歩くと出現する。90年度以降に記録が無いのは、調査回数によるものと思われる。

○ツル類

過去に記録のある7種のうち、8年間では5種を記録した。主群はナベヅル、マナヅルであるが、クロヅルは8年間毎年2～6羽、カナダヅルは87年度から6年連続で1～2羽、アネハヅルは86・87・89年度に1～2羽を、それぞれ記録した。

○クイナ・バン類

過去に記録のある8種のうち、8年間では5種を記録した。バンが最も普通で個体数も多く、ずっと少なくなってヒクイナとクイナが次いでいる。オオバンとシマクイナは極く稀である。

○シギ・チドリ類

過去に記録のある52種のうち、8年間では31種を記録した。記録種が比較的少ないのは、この仲間

の多くが長距離の渡り鳥であり、8～9月ならびに4～5月が日本に滞在する季節であるが、当調査は冬期に実施しているため、これらの滞在時期に当たっていないことによるものである。当地での越冬種としてはタマシギ・コチドリ・イカルチドリ・シロチドリ・ダイゼン・ケリ・タゲリ・ハマシギ・クサシギ・イソシギ・ヤマシギ・タシギがいる。このうち、シロチドリ・タゲリ・ハマシギ・クサシギ・インシギ・タシギが普通に見られるが、他は個体数が少ない。また、毎年ではないが越冬しているものにキョウジョシギ、エリマキシギ、オジロトウネンなどがある。アオアシシギは年によって越冬しているが、厳冬期には姿を見なくなるのが普通である。

○カモメ類

過去に記録のある6種のうち、8年間で4種しか記録できなかった。ウミネコが最も多く、ついでセグロカモメ、少なくなってユリカモメである。ズグロカモメは野田川と高尾野川の合流点で87年11月5日に1羽を記録している。当地での新記録種である。

○アジサシ類

記録していない。

○ハト類

キジバトは極めて多い。アオバトは周辺丘陵地の林で見ている。ベニバトは87年度の88年1月と2月に雄成鳥1羽と幼鳥1羽を記録している。当地での初記録である。

○カッコウ類

記録していない。

○ヨタカ・アマツバメ類

ヨタカとアマツバメを11月の調査時に少数を記録した。

○フクロウ類

少数のコミミズクを記録したが、毎年ではない。また、オオコノハズクはツルの侵入防御のための張られた防鳥網にかかっていたもの。コミミズクが網にかかっていた例もある。

○カワセミ類

カワセミは個体数が多く、水辺であれば狭い流れから川・池などどこでも見られる。ヤマセミも個体数は少ないが、冬期のためか平地の川辺に頻繁に出現してきていた。

○キツツキ類

過去に記録のある4種のうち、8年間では3種を記録した。周辺丘陵部の林で最もよく見られたのがコゲラで、次いでアオゲラである。アリスイは稀に屋敷林や農地の灌木帯などで記録した。

○ヒバリ類

過去に記録のある3種のうち、記録したのはヒバリ1種だけであった。多数が越冬している。

○ツバメ類

過去に記録のある4種のうち、4種を記録した。ショウドウツバメは渡り途中のものと思われるが、ツバメ・コシアカシバメ・イワツバメでは厳冬期の1・2月に記録しているので、越冬しているものがあると思われる。

○セキレイ・タヒバリ類

過去に記録のある9種のうち、8年間では8種を記録した。ハクセキレイ・タヒバリは個体数も多く、次いでセグロセキレイ・キセキレイが多い。松林ではビンズイもよく見られる。

ムネアカタヒバリは当地としては越冬することもあり、あえて稀ではないが個体数は少ない。マミジロタヒバリは87年10月31日、88年11月8日に各1羽を記録している。渡り途中のものであろう。

○サンショウクイ・ヒヨドリ類

サンショウクイは記録していない。

ヒヨドリは人家周辺や林でよく見ることができる。

○モズ類

過去に記録のある2種のうち、8年間ではモズのみを記録した。モズは関東地方などに較べて秋から春期の個体数はずって多いと思われる。

○レンジャク類

過去に記録のある2種のうち2種を記録したが、その渡来は毎年ではない。

○カワガラス・ミソサザイ・カヤクグリ類

カワガラスは周辺丘陵地の川ではよく見られる。

カヤクグリは89年11月11日に1羽を記録したのみ。

○ヒタキ類

過去に記録のある22種のうち、8年間では12種を記録した。ジョウビタキ・イソヒヨドリ・シロハラ・ツグミ・ウグイス・セッカなどが個体数も多く、よく見ることができるが、当地は水田が広がっているので、ツグミが最も多い。ノビタキは10・11月に限れば渡り途中と思えるものをよく見ることができる。ノゴマは87年11月5日に1羽を記録しているのみ。

○エナガ・シジョウカラ類

水辺の芦原では、ツリスガラが10～20程度の群で見ることが多い。

周辺の丘陵地の林では、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラを見ることができる。

○メジロ類

メジロは人家周辺や林でよく見ることができる。

○ホオジロ類

過去に記録のある14種類のうち、8年間では12種を記録した。ホオジロ・カシラダカ・アオジ・オオジュリンそれにホオアカが当地の普通種であり、周辺の丘陵地ではミヤマホオジロもこれに加えることもできる。ノジコは10～11月に渡りの途中と思えるものを記録している。

稀種としては、当地の新記録として88年1月と2月に6羽、89年11月に1羽のシラガホオジロを記録している。89年度と90年度にコホオアカを、90年度にコジュリンを、89年度にシベリアジュリンを記録したが、いずれも1～数羽と少数である。87年度と88年度にサバンナシトドを記録したが、これも1～6羽と少数であった。

○アトリ類

過去に記録のある9種のうち、8年間では7種を記録した。カワラヒワが最も普通で個体数も多いし、まとまった群をつくることも多い。また、アトリが渡来する年も多く、コンパクトな群をつくるので目を引きやすい。イカルも群でいることが多いし、地上へおとりて採餌することも多い。コイカルの記録も時にあるが、コイカルのみの少群でいることが多い。

○スズメ類

ニュウナイスズメは毎年とは言えないが、数羽から数十羽が渡来し、越冬している。

○ムクドリ・オオチュウ類

過去に記録のある6種のうち、8年間では3種を記録した。九州地方はムクドリの個体数は少ない地方であるが、当地ではよく見られる。そうした中にホシムクドリが混棲していることも少なくなく、個体数は少ないが、ムクドリに次いでよく見ている。カラムクドリは90年度に1羽が見られたが、古浜の屋敷林に棲息していた。オオチュウの記録はなかった。

○カラス類

8年間では6種を記録した。カケスは周辺の丘陵地ではよく見ることができる。カラス4種のうち当地で冬期に最も個体数の多いのはミヤマガラスである。それにコンパクトな群をつくっているのが、目立つ。コクマルガラスも毎冬見られるが、最近の本種だけの群を見ることもあり、ミヤマガラスともども渡来数が増加する傾向にある。カササギは89年11月12日に1羽を認めたのみで、ミヤマガラスに追われていて、翌日以後は見られなかった。

本調査には多くの方々からご協力をいただいている。国立科学博物館附属自然教育園の方々、鹿児島県教育庁文化課の方々、出水市教育委員会社会教育課の方々、それに調査を手伝っていただいた、内田康夫、川原田史治、俣田実、小田文弘、下津紀代志、藤井格、対馬良一、田頭吉一、神崎高歩の皆さんに、厚くお礼申し上げます。



写真1. オオノスリ (*Buteo hemilasius*) 85年11月



写真2. ハイイロチュウヒ♀ (*Circus cyaneus*) 90年2月

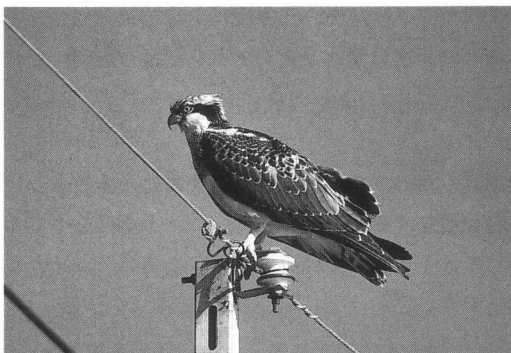


写真3. ミサゴ (*Pandion haliaetus*) 86年12月



写真4. コチョウゲンボウ (*Falco columbarius*) 87年1月



写真5. アカガシラサギ (*Ardeola bacchus*) 87年11月



写真6. ムラサキサギ (*Ardea purpurea*) 88年11月



写真7. ベニバト (*Streptopelia tranquebarica*) 88年1月



写真8. マミジロタヒバリ (*Anthus novaeseelandiae*) 87年11月



写真9. サバンナシトド (*Passerculus sandwichensis*) 88年1月



写真10. ホシムクドリ (*Sturnus vulgaris*) 89年1月

摘 要

1. 鹿児島県出水平野では1986年度までに、ツル類7種をはじめ257種が記録されていた。
2. 本調査期間中に、1987年度では133種、88年度では123種、89年度では115種、90年度では108種、91年度では109種、92年度では86種、合計で188種を記録した。
3. それらの結果、当地の目録は265種になっている。

文 献

- 柳澤紀夫・藤村仁・安部直哉・内田康夫・藤井格. 1987. 鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第11報 1985, 86年度に出水・阿久根地方で観察された鳥類 自然教育園報告 (19) : 61-75.

種名	85	86	87	88	89	90	91	92
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
76. チゴハヤブサ <i>Falco subbuteo</i>	〇		〇					
77. コチョウゲンボウ <i>F. Columbarius</i>	〇	〇		〇	〇	〇	〇	〇
78. チョウゲンボウ <i>F. tinnunculus</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
79. ウズラ <i>Coturnix coturnix</i>	〇	〇	〇	〇	〇			
80. コジュケイ <i>Bambusicola thoracica</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
81. キジ <i>Phasianus colchicus</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
82. クロヅル <i>Grus grus</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
83. タンチョウ <i>G. japonensis</i>								
84. ナベヅル <i>G. monacha</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
85. カナダヅル <i>G. canadensis</i>			〇	〇	〇	〇	〇	〇
86. マナヅル <i>G. vipio</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
87. ソデグロヅル <i>G. leucogeranus</i>								
88. アネハヅル <i>Anthropoides virgo</i>		〇	〇		〇			
89. クイナ <i>Rallus aquaticus</i>	〇	〇			〇		〇	
90. ヒメクイナ <i>Porzana Pusilla</i>								
91. ヒクイナ <i>P. fusca</i>	〇		〇	〇	〇	〇	〇	〇
92. シマクイナ <i>P. exquisita</i>	〇	〇						
93. シロハラクイナ <i>Poliolimnas cinereus</i>								
94. バン <i>Gallinula chloropus</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
95. ツルクイナ <i>Gallinula cinerea</i>								
96. オオバン <i>Fulica atra</i>		〇				〇	〇	
97. タマシギ <i>Rostratula benghalensis</i>			〇	〇	〇	〇		
98. ハジロコチドリ <i>Charadrius hiaticula</i>								
99. コチドリ <i>C. dubius</i>	〇	〇	〇	〇	〇		〇	〇
100. イカルチドリ <i>C. placidus</i>	〇	〇			〇	〇	〇	
101. シロチドリ <i>C. alexandrinus</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
102. ルダイチドリ <i>C. mongolus</i>	〇	〇	〇			〇		
103. オオメダイチドリ <i>C. leschenaultii</i>		〇						
104. オオチドリ <i>C. asiaticus</i>								
105. ムナグロ <i>Pluvialis dominica</i>	〇	〇	〇	〇	〇			
106. ダイゼン <i>P. squatarola</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
107. ケリ <i>Microsarcopus cinereus</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇		〇
108. タゲリ <i>Vanellus vanellus</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
109. キョウジョシギ <i>Arenaria interpres</i>	〇			〇			〇	
110. ヨーロッパトウネン <i>Calidris minuta</i>								
111. トウネン <i>C. ruficollis</i>	〇	〇	〇					
112. ヒバリシギ <i>C. minutilla</i>								
113. オジロトウネン <i>C. temminckii</i>	〇		〇	〇			〇	

種名	85	86	87	88	89	90	91	92
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
152. カモメ <i>Larus canus</i>							〇	〇
153. ウミネコ <i>L. crassirostris</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
154. スズロカモメ <i>L. saundersi</i>			〇					
155. ハジロクロハラアジサシ <i>Sterna leucoptera</i>								
156. クロハラアジサシ <i>S. hybrida</i>								
157. ハシプトアジサシ <i>S. nilotica</i>								
158. アジサシ <i>S. hirundo</i>								
159. セグロアジサシ <i>S. fuscata</i>								
160. コアジサシ <i>S. albifrons</i>								
161. ベニバト <i>Streptopelia tranquebarica</i>			〇					
162. キジバト <i>S. orientalis</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
163. アオバト <i>Sphenurus sieboldii</i>		〇	〇	〇	〇			
164. カッコウ <i>Cuculus canorus</i>								
165. コミミズク <i>Asio flammeus</i>	〇			〇		〇		
166. オオコノハズク <i>Otus bakkamoena</i>						〇		
167. アオバズク <i>Ninox scutulata</i>								
168. ヨタカ <i>Caprimulgus indicus</i>	〇		〇					
169. ヒメアマツバメ <i>Apus affinis</i>								
170. アマツバメ <i>A. pacificus</i>	〇	〇	〇					
171. ヤマセミ <i>Ceryle lugubris</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
172. カワセミ <i>Alcedo atthis</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
173. ブッポウソウ <i>Eurystomus orientalis</i>								
174. アリスイ <i>Jynx torquilla</i>		〇	〇				〇	
175. アオゲラ <i>Picus awokera</i>	〇	〇					〇	
176. オオアカゲラ <i>Dendrocopos leucotos</i>								
177. コゲラ <i>D. kizuki</i>		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
178. ヒメコウテンシ <i>Calandrella cinerea</i>								
179. コヒバリ <i>C. rufescens</i>								
180. ヒバリ <i>Alauda arvensis</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
181. ショウドウツバメ <i>Riparia riparia</i>	〇	〇	〇					
182. ツバメ <i>Hirundo rustica</i>	〇	〇	〇	〇	〇			
183. コシアカツバメ <i>H. daurica</i>	〇	〇	〇		〇			
184. イワツバメ <i>Delichon urbica</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
185. ツメナガセキレイ <i>Motacilla flava</i>								
186. キセキレイ <i>M. cinerea</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
187. ハクセキレイ <i>M. alba</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
188. セグロセキレイ <i>M. grandis</i>	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
189. マミジロタヒバリ <i>Anthus novaeseelandiae</i>			〇	〇				

種 名	85	86	87	88	89	90	91	92
	}	}	}	}	}	}	}	}
	86	87	88	89	90	91	92	93
190. ビンズイ <i>Anthus hodgsoni</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
191. セジロタヒバリ <i>A. gustavi</i>								
192. ムネアカタヒバリ <i>A. cervinus</i>	○	○	○	○	○			
193. タヒバリ <i>A. spinoletta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
194. サンショウクイ <i>Pericrocotus divaricatus</i>								
195. ヒヨドリ <i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
196. モズ <i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
197. アカモズ <i>L. cristatus</i>								
198. キレンジャク <i>Bombycilla garrulus</i>		○				○		
199. ヒレンジャク <i>B. japonica</i>		○		○		○		
200. カワガラス <i>Cinclus pallasii</i>	○	○	○	○	○		○	
201. ミソサザイ <i>Troglodytes troglodytes</i>				○	○			
202. カヤクグリ <i>Prunella rubida</i>					○			
203. ノゴマ <i>Erithacus calliope</i>			○					
204. オガワコマドリ <i>E. svecicus</i>								
205. ルリビタキ <i>Tarsiger cyanurus</i>	○		○		○			
206. ジョウビタキ <i>Phoenicurus aureus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
207. ノビタキ <i>Saxicola torquata</i>	○		○	○	○			
208. イソヒヨドリ <i>Monticola solitarius</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
209. トラツグミ <i>Turdus dauma</i>	○		○	○		○		
210. アカハラ <i>T. chrysolaus</i>		○	○	○	○			
211. シロハラ <i>T. Pallidus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
212. ツグミ <i>T. naumanni</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
213. ヤブサメ <i>Cettia squameiceps</i>								
214. ウグイス <i>C. diphone</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
215. シマセンニュウ <i>Locustella ochotensis</i>								
216. コヨシキリ <i>Acrocephalus bistrigiceps</i>								
217. オオヨシキリ <i>A. arundinaceus</i>			○					
218. センダイムシクイ <i>Phylloscopus occipitalis</i>								
219. キクイタダキ <i>Regulus regulus</i>	○							
220. セツカ <i>Cisticola juncidis</i>	○	○	○	○	○	○	○	
221. キビタキ <i>Ficedula narcissina</i>								
222. オオルリ <i>Cyanoptila cyanomelana</i>								
223. エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i>								
224. エナガ <i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	○	○	○	○	○	
225. ツリスガラ <i>Remiz pendulinus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
226. ヤマガラ <i>parus varius</i>	○			○	○		○	
227. シジュウガラ <i>P. major</i>	○	○		○	○	○	○	

種 名	85 ∟ 86	86 ∟ 87	87 ∟ 88	88 ∟ 89	89 ∟ 90	90 ∟ 91	91 ∟ 92	92 ∟ 93
計	135 種	129 種	133 種	123 種	115 種	108 種	109 種	86 種
合 計	188 種							